

令和4年度
外来種対策事業（哺乳類対策）

報 告 書

令和5年3月

沖 縄 県

目次

1. 業務概要	1
1.1 概要	1
1.2 実施工程	2
1.3 実施方針	2
1.4 実施項目	2
2. ニホンイタチの捕獲等実施	5
2.1 Docによる捕獲作業	5
2.2 カゴわなによる集中捕獲	15
2.3 糞探索犬によるモニタリング	19
2.4 個体数推定	24
2.5 イタチ捕獲数の経年変化	29
3. アライグマのモニタリング等実施	33
3.1 目的	33
3.2 自動撮影カメラによるモニタリング	33
3.3 目撃情報等のヒアリング	35
3.4 飼養状況調査	35
3.5 まとめ	35
4. 他の外来哺乳類の緊急防除	36
4.1 西表島におけるノヤギの防除及びモニタリング手法の検討	36
4.2 ノヤギ以外の外来哺乳類の侵入・定着状況	41
5. 検討委員会の設置・運営、普及啓発	42
5.1 作業部会開催報告	42
5.2 普及啓発	45
6. 令和5年度の実施計画案	46
6.1 ニホンイタチ防除に関する項目	46
6.2 ノヤギ防除に関する項目	47

1. 業務概要

1.1 概要

1.1.1 業務名

令和4年度外来種対策事業（哺乳類対策）

1.1.2 業務目的

県内においては、既に様々な外来種が侵入し、一部定着が確認されている。それらの状況を踏まえ、令和元年度までに、「沖縄県外来種対策指針」（以下「指針」という。）、「沖縄県対策外来種リスト」（以下「リスト」という。）及び「沖縄県外来種対策行動計画」（以下「行動計画」という。）を策定し、本県の外来種対策を推進しているところである。

本業務は、本県の生態系を保全するため、指針や行動計画等に基づき、外来種（哺乳類）への対策を実施するものである。

1.1.3 業務期間

令和4年4月8日～令和5年3月24日

1.1.4 業務実施地域

沖縄県内

1.1.5 請負者

株式会社島嶼生物研究所

1.1.6 業務内容

- ① ニホンイタチの捕獲等実施
- ② アライグマのモニタリング等実施
- ③ 他の外来哺乳類の緊急防除
- ④ データの集計・解析等
- ⑤ 検討委員会の設置・運営、普及啓発
- ⑥ 業務実施結果の取りまとめ

1.4.2 アライグマのモニタリング等実施

(1) カメラ等によるモニタリング

沖縄島内の河川沿いや水辺環境を中心とした10か所において、自動撮影カメラによるモニタリング調査を実施した。

(2) 目撃情報等のヒアリング

沖縄島の河川沿いや水辺環境、農地周辺等において、目撃情報を継続的に収集した。

(3) 飼養状況調査

関係機関と連携し、沖縄県内での飼育状況の把握を行った。

1.4.3 他の外来哺乳類の緊急防除

リストに定める重点予防種や生態系への影響が大きい哺乳類の侵入・定着が確認された場合には、緊急的な防除の検討を行うこととした。また、西表島の野生化したヤギの生態系への影響が問題視されていることから、今後のモニタリング方法、防除対策を検討した。

1.4.4 データの収集・解析等

捕獲状況、生息密度及び捕獲効率等についてのデータを収集、解析及び評価し、課題点を抽出するとともに捕獲手法に反映させた。

1.4.5 検討委員会の設置・運営、普及啓発

作業部会は今年度2回開催し、イタチの防除手法の実証や捕獲結果の評価等を行った。作業部会委員は、担当職員と協議の上5名を選出した。また、別途設置された外来種対策事業検討委員会において、本事業の実施状況を報告した。

普及啓発のため、伊良部島での新規のわな設置の際にイタチの駆除に関するチラシを配布した。また、令和4年度外来種対策事業と連携し、県内でのアライグマに関するチラシの配布及び掲示、令和4年度県民環境フェア「エコライフ&ネイチャーフェア2022」でのノヤギに関する展示を実施した。

1.4.6 業務実施結果の取りまとめ

上記について、業務報告書等の取りまとめを実施した。

【用語の解説】

●TD (Trap Days)

捕獲圧の指標となる捕獲努力量を表し、次式により計算される。わな日ともいう。

$$TD = \text{わな数 (個)} \times \text{わな稼働日数 (日)}$$

生け捕りわな（かごわな）の稼働日数は、点検の場合は1日とする。また、わなを稼働させた日は0日、閉じた日は1日とする。Doc200（以下、Docと表記する）の稼働日数は、点検の場合は点検日を含めた8日、わなを開けた場合は翌日から7日とする。

●CPUE (Catch Per Unit Effort)

捕獲努力量当たりの捕獲数を表す。ここでは100TDあたりの捕獲数として、次式により計算される。

$$CPUE = \text{捕獲数} / \text{捕獲努力量 (TD)} \times 100$$

同一手法の捕獲によるCPUEを比較することで、生息密度の違いや変化を示す指標となる。また、異なる手法によるCPUEを比較することで、捕獲効率の違いを示す指標となる。

【Docについて】

Docはニュージーランド環境保全省が開発したわなであり、イタチ科の外来種の捕獲に使用されている。トラップはステンレス製で、踏み板を踏むと上部にある扉が下に落ち、圧死させる構造となっている（図1-1）。

踏み板は100g以上の動物が踏むと作動するようになっているため、小さな動物では反応しない。また、トラップ入口の大きさをイタチの体の大きさに合わせて調整することや、イタチ以外の動物があまり興味を示さない餌（生卵など）を使用することで混獲のリスクを低減させることが可能である。

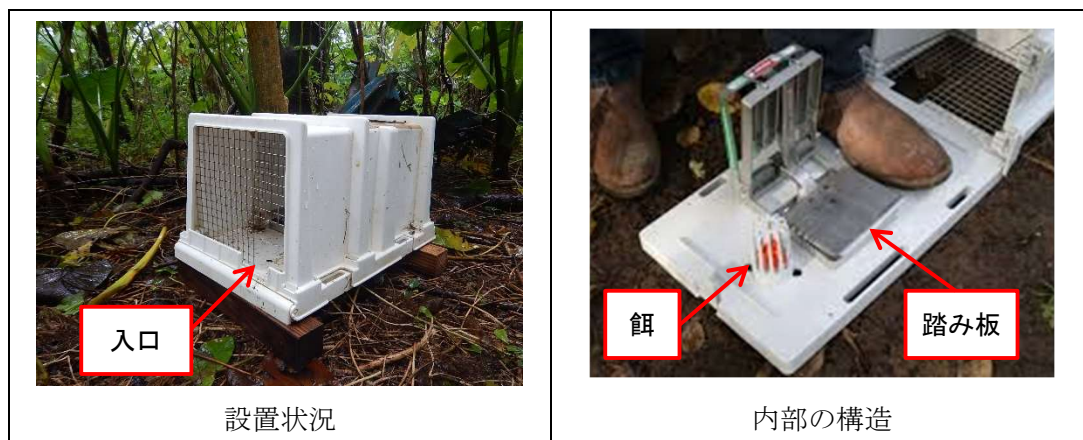


図 1-1 Doc200